

慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

日本初の普通選挙で注目された 選挙ポスターを読み解く

『第一回普選と選挙ポスター』

——昭和初頭の選挙運動に関する研究——

玉井清（法学部教授）著

慶應義塾大学出版会／6930円（2013年5月）



1928（昭和3）年に実施された第16回衆議院議員選挙は、普通選挙法成立後の総選挙であったため、「第一回普選」とも呼ばれる。このときに作成されたポスターやビラなどの資料を義塾図書館で発見した著者が、これらを読み解き、当時展開された選挙戦の実際と、有権者の政治への参加意識に迫ったのが本書だ。

カラー32ページにわたり掲載されているポスターは、風刺あり、モダニズムありでバラエティに富んでいる。しかし選挙終盤になるにつれ、政策より情に訴えたり、名前を大書したりするだけのポスターが増えていく……その選挙風景は現代に通じ、非常に興味深い。

教職員執筆の最新刊

●坂本光（文学部教授）著

『英国ゴシック小説の系譜——「フランケンシュタイン」からワイルドまで』
慶應義塾大学出版会／2100円（2013年4月）

●アダム・シュレイガー著、池田年穂（薬学部教授）訳

『日系人を救った政治家 ラルフ・カー——信念のコロラド州知事』水声社
／4725円（2013年7月）

●寺澤行忠（名誉教授）著

『アメリカに渡った日本文化』淡交社／1890円（2013年7月）

●岸田和明（文学部教授）ほか編

『シリーズ図書館情報学2 情報資源の組織化と提供』東京大学出版会／3150円（2013年7月）

●小幡績（経営管理研究科准教授）著

『成長戦略のまやかし』PHP新書／798円（2013年8月）

●下村裕（法学部教授）著

『卵が飛ぶまで考える——物理学者が教える発想と思考の極意』日本経済新聞出版社／1785円（2013年8月）

✂ 慶應義塾この一冊

『アカデミック・スキルズ データ収集・分析入門』
——社会を効果的に読み解く技法——

慶應義塾大学教養研究センター監修
西山敏樹（システムデザイン・マネジメント研究科特任准教授）、鈴木亮子（経済学部教授）、大西幸周（システムデザイン・マネジメント研究科特任助教）著
慶應義塾大学出版会／1890円
（2013年6月）



毎日の買い物から、社運を懸けたプロジェクトの選択に至るまで、人や組織はさまざまな場面でデータを見て意思決定し、行動していく。それだけ重要な性格を持つ「データ」を、いかに正しく収集・分析するかを解説したのが本書である。質的データと量的データ双方の「収集・分析」考察一までの一連の手法を、具体例を交えてわかりやすく説明。学生にはもちろん、社会人や研究者にも役立つ、汎用性の高い導入書となっている。